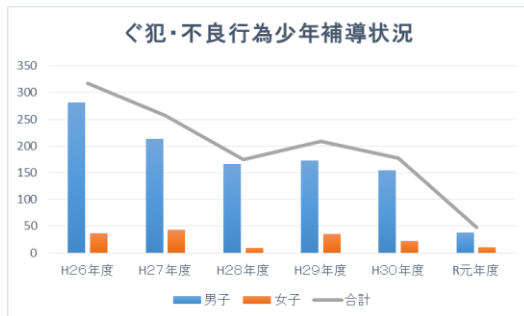


## 楽しい夏休み！ でも油断禁物！！

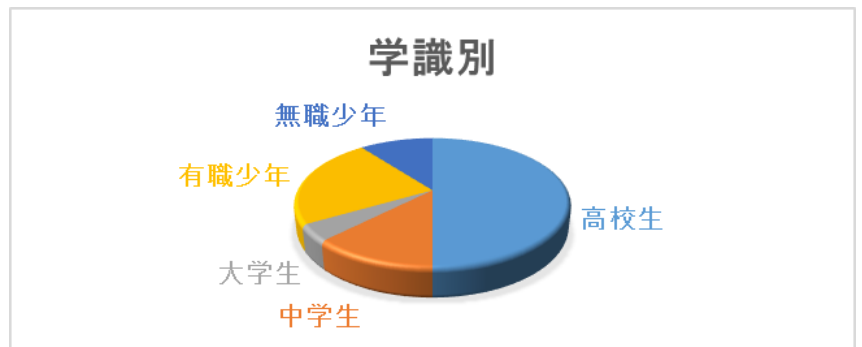
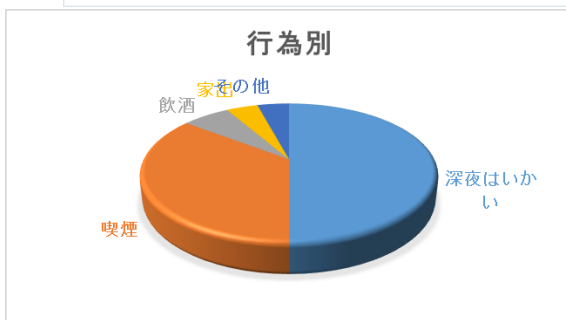
今年は残念ながら夏休みが短くなってしまいましたが、それだけにしっかり楽しもうという気持ちが、思いもよらぬ危険を招いてしまうかも知れません。「玉島警察署管内の少年非行」（令和元年度中）のぐ犯・不良行為少年補導状況は以下の通りです。



ご覧の様に全体としては減少傾向にあります。

行為別では深夜はいかがい最も多く全体の50%を占めており、次いで喫煙が全体の35.4%を占めています。また、飲酒は3人、家出は2人です。

学識別では高校生が全体の50%を占めています。次いで有職少年が23%、中学生13%です。



なお、居住地別では倉敷市(玉島警察署管内)が21人、浅口市が10人、里庄町が2人、その他管外が15人という状況です。減少傾向にあるので、この夏休みが契機となって悪化してしまわないように、子どもたちをしっかりと見守っていきましょう。

### ～ ぐ犯少年とは ～

次のような事由があって、その性格又は環境に照らして将来罪を犯し、又は刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年をいう

- 保護者の正当な監督に服しない性癖がある
- 正当な理由がなく家庭に寄り付かない
- 犯罪性のある人若しくは不道徳な人と交際し、又はいかがわしい場所に出入りしている
- 自己又は他人の特性を害する行為をなす性癖がある

## 愛情 それとも甘やかし？！

梅雨シーズン、下校時の学校で、よく見る光景に「？」(はてな)が浮かびます。次々とやってくる、保護者による子供たちを迎える車の列です。親の愛情？！ 安全のため？

今は廃校となった県北のある中学校には、こんな家庭がありました。中学校1年生のMさんは、学校から約9キロ離れた自宅から自転車で通学しています。下校の時、最初は5人くらいの友達と一緒にですが、最後の数キロはたった一人で自転車をこぎます。そして、

その道は家に近づくとつれ狭くなり、道沿いには外灯も民家もなく、昔でいうなら「天狗が出そうな道」なのです。（『先生この前、家の近くにサルが出たよ』と彼女が話してくれたり、地域の有線放送で『本日〇〇でクマが出ました。ご注意ください』というアナウンスもあるといえ、どんな地域か理解していただけだと思います）

危険なので自転車で後を付いて行くと、自宅から数キロ手前で、前方から軽トラックがやって来ます。この軽トラックは彼女の祖母が運転しており、彼女を迎えに来たのです。ここからは荷台に自転車を載せて、一緒に帰るのかと思いきや、彼女は自転車をこぎ続けます。Uターンして来た軽トラックは、ライトを点灯して彼女の自転車の前方を照らします。時には母親、時には父親やおじいちゃんが、交代でこの役目を果たします。じいちゃん曰く『わしらが子供のころは、峠を三つ越え、2時間以上かけて歩いて学校に行っただんじゃ』とのこと。また、Mさんは自転車をこぎながら、道沿いの家に人を見つけると『帰りました！』とすべての人に声をかけていきます。

スクールカウンセラーの先生からこんな話を聞きました。

### 甘やかしとは「本人に必要でないことをしてあげること」

雨の日の送迎、成績向上のご褒美、スマホ、ゲームなど与える時には、本当に必要なのかじっくり考えたいものです。ご存知のように、甘やかされた子供は、自分の力で物事を解決しようとせず、上手いかないと他者のせいにしてしまう傾向にあると言われていいます。子どもたちが「自立」するためには、時として心を鬼にすることも必要でしょうか。

### 自立とは「自分の人生の問題を自分の力で解決できること」～アドラー心理学～

「ほめる」

アドラー心理学ではほめることが禁止事項となっている。それはほめることの目的が相手を操作することだから。「我々が他者をほめたり叱ったりするのは「アメを使うか、ムチを使うか」の違いでしかなく、背後にあるのは操作です」ほめることにより相手は喜び、やる気を出すようになる。しかし、やがては「ほめられればやる。でも、ほめられなければやらない」という考えになり、相手からほめられることに依存するようになる。人からほめられることに自分の価値を見出そうとすれば、他者の評価を気にして、他者に依存し、他者の人生を生きるようになってしまふ。それではどうするか。

「感謝する」

人は感謝の言葉を聞いたとき、自らが他者に貢献できたことを知り、自らの価値を感じ、自立する勇気が湧いてくる。仏教では「心施」と言い「ありがとう」「助かったよ」という言葉を通して感謝の気持ちを感じ、施すこと。ところが、私たちには自分の行為に対して、感謝やお礼などの見返りを求める心があると仏教では説かれている。親切をしても感謝されない、もう二度としないと腹を立て、もう二度とやらないと決意するのが人間の悲しい実態。ほめられるだけでなく、相手から感謝されることに依存してしまふ。すなわち勇気づけることが、場合によっては相手をいわば勇気づけに依存させることになる。

「存在を認める」

自立させるには「行為」ではなく「存在」のレベルで相手の価値を認めることだ。何をしたらからではなく、ただ「存在」していることがすでに喜びであるということ伝える。存在そのものが認められることによって、ほめられるかどうか、感謝されるかどうかとは無関係に自分の価値を感じ、自立していけるようになる。